



かれており、こちらは躍動感が一段と増した。さらにリアコンビネーションランプがバックドア部も一体となったデザインに変更されたこともあり、リアビューは全く別物に生まれ変わったと言える。

そんな新型フリードの特筆すべき点は、ハイブリッドシステム搭載車に4WDを備



#### 主要諸元：(HYBRID G Honda SENSING 4WD)

- 全長×全幅×全高／4,265×1,695×1,735mm
- ホイールベース／2,740mm
- トレッド／前：1,480mm 後：1,485mm
- 車両重量／1,490kg
- 最小回転半径／5.2m
- エンジン／1495cc 直列4気筒 DOHC
- 最高出力／110ps／6000rpm
- 最大トルク／13.7kgm／5000rpm
- モーター最高出力／29.5ps、最大トルク：16.3kgm
- JC08モード燃費／25.2km/ℓ
- ミッション／7速オートマチック
- ブレーキ／前／ベンチレーテッドディスク 後／ディスク
- タイヤサイズ／185/65R15
- 駆動方式／4WD
- 乗車定員／6名
- 車両本体価格(札幌地区)／2,728,200円(税込)

えたグレードを設定したことで、様々な車種のハイブリッド+4WDバージョン化を次々と実現させているのが、HONDAならではの強味。ミドルクラスミニバンにおいても、このフリードが先駆けとなったワケである。状況に応じてFと四駆を電子制御で切り替えるリアルタイム4WDを採用し、その特性のひとつであるコンパクト設計の長所を十分に活かして、室内空間の確保も並立させている。四駆待望論が根強い道内のミニバンファンにとっても、まさに待望の一台の登場だ。

ハイブリッドシステム自体もバージョンアップが図られた。これまでシステムの製造には、素材としてレアメタルが欠かせなかったが、HONDAは大同特殊鋼との共同開発により世界で初めてレアメタルを全

く使用しないエネオジウム磁石の実用化を実現。同時に小型化を図った結果、多くの車体で収納に大きなスペースを要しているIPU(インテリジェントパワーユニット)を、助手席下にすっきりと収納することに成功した。先代モデルの場合は3列シート下に配置されており、その分居住性が犠牲に

#### よりスムーズに

ドライバーはもちろん、同乗者にとって扱いやすさが増した点も新型フリードの大きな魅力。特に、両側スライドドアの開口幅が20mm拡大され最大665mmとなったことにより、2列目シートはもとより3列シートへの乗り降りがさらにスムーズになった。また、ステップ高は15mm下がって390mmとなったことにより、子供や高齢者も一段と楽

なっていたことが否めないが、この点も大きく改善されており、実際に3列目に確保されたスペースは平均的な体格の大人なら十分に満足できるだろう。またガソリンエンジンも新型が搭載されており、相乗効果によりJC08モード燃費27.2km/ℓ(FF仕様)と、ミニバントップレベルの低燃費となった。

機能面の強化がとりわけ顕著に現れているのは、安全運転支援システムHonda SENSINGを標準搭載した(一部グレードを除く)点だ。衝突軽減ブレーキ、歩行者事故軽減ステアリング、車線維持支援、路外逸脱抑制、誤発進抑制、先行車発進お知らせなどの有効機能が満載である。その中には、走行中に道路標識を認識してマルチインフォメーション・ディスプレイに表示する標識認識機能も加えられており、無用な交通法規違反運転の回避につながる効果が期待できる。注意力や判断力が衰えがちな高齢者や運転の少ない女性ドライバーなど、安心してステアリングを握ることができるだろう。



#### 時代の先端へ —プロフィール—

近年、主にファミリー層から絶大な支持を得ているミニバン。同カテゴリーには現在、大型高級車種からステーションワゴン並み

# HONDAテクノロジーを 惜しみなく搭載 HONDA FREED

■テキスト=青柳 健司 (フォトライター) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)  
■取材協力=ホンダカーズ札幌中央 新札幌店 Tel.(011)897-7777

#### 待望の4WD

フルモデルチェンジとなった今回は、数えて2代目のモデルである。象徴的とも言えた先代の前面部は、フロントガラスの傾斜角を保ったままボンネット、グリル、そしてバンパーへと流れる造形だったが、新型フリードではこれを一新。グリルからノーズに至るラインがより急角度になり、前部がグッと立ち上がった印象。現行ステップワゴンにも通ずる立体的なマスクとなっている。サイドには上下とリアフェンダー周辺に、それぞれ全く異なるボディプレスラインが描

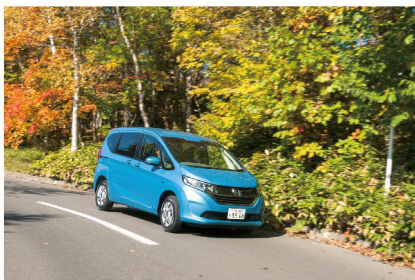
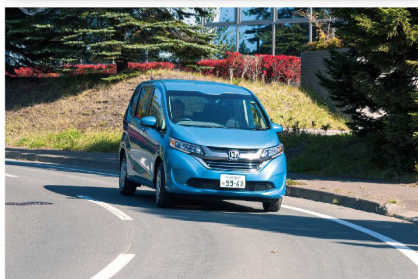
## ディーラーメッセージ

ホンダカーズ札幌中央 新札幌店

営業

**大宮 聡大** さん

新しくなったフリードは、使い勝手がさらに良くなりました。安全運転支援システムも充実し、安心してお乗りいただけます。何と言っても待望のハイブリッド4WDが設定されましたので、多くの方々にご納得いただけたと思います。ハイブリッドならではの加速感やモーター走行時の静かな走りにも、ぜひご注目いただきたいです。



に乗り込める設計になっている。1列目から2列目のウォークスルー幅がそれぞれ拡大されており、車内での移動も一層スムーズに行える。

### インプレッション

#### 機能も走りも高水準

試乗車を提供してくれたホンダカーズ札幌中央の新札幌店は、去る10月15日に新築移転オープンした明るく開放的なショールームだ。その真新しい店舗で、新型フリードに与えられたグッドスタイリングが一段と映えて見える。

グレード構成は、ハイブリッド車とガソリン車に分かれ、どちらも装備・機能に応じて3タイプのグレードを用意。5人乗りのフリード+（プラス）も同時デビューしており、こちらもハイブリッド車とガソリン車に分かれ、それぞれグレードが用意されている。なお、4WDは一部グレードには未設定となっている。

この中から、試乗用に提供された車種の名称はハイブリッドG Honda SE NS-INGで、駆動は4WD。ちなみに、FF駆動車は6人乗りと7人乗り、4WD車は6人乗りの設定となる。

運転席に収まってまず感じるのは、圧倒的に広い視界だ。特に、今回は「富士額」と開発サイドが表現するフロントガラス上部の切り込みが特徴的。例えば、先代モデルは停止位置によって信号機が視界から消えてしまうケースもあったが、富士

額によって前屈みにならなくてもそれらがしっかり確認できる。その効用は、予想以上に高いと思われる。

発進は実に軽快で、環境性能の高いアトキンソンサイクルを採用したエンジンに、高出力モーターを搭載したSPORT HYBRID i-DCDを組み合わせたパワユニットが充足から高い能力を発揮。加速フィールも伸びやかで、低速域から高速域まで全く淀みない。連続コーナーでの安定感も及第点以上で、静粛性においても先代からの着実な進歩が感じられた。最小回転半径はコンパクトカーと遜色ない5.2mとあって、交差点等での旋回性能は申し分なく、狭い駐車場などでも楽に取り回しができる。

急こう配の登坂道でも新型フリードの軽快感は揺るぎなく、幅広いフィールドで躍動感溢れる走りを提供してくれるだろう。今回は悪路を試走するチャンスがなかったため、4WDの有効性を検証することとも叶わなかったが、HONDA各車の実績から見てもその実力を想像するに難しくない。それでも、機会があればぜひ冬の凍結路などで検証してみたいものである。

試乗車はその名の通り、最高水準の安全運転支援システムが標準装備されたグレードである。ほとんどの機能は緊急時にはじめて作動するものなので、当然ながらそれらひとつひとつを試すこともできなかったが、標識認識機能など常時作動している機能もある。ゆえに、ユーザーはドライブレナードなん時もクルマに守られていることを感じることができるだろう。